



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行/カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am (「朝の祈り」に続いて)
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



聖母のみ心

主任司祭 小西 広志 神父

聖霊とマリア

イエスは生涯を通じて神の霊と共にありました。霊によって生まれ(ルカ1・35)、洗礼の時に霊は鳩の形で降り(3・22)、霊に導かれて試みにあい(4・1)、霊を御父に明け渡して十字架上で息を引き取られました(23・46)。イエスは父のみ心に従うために、聖霊に支えられて歩み、十字架での死を通して世にいのちを与えたのです。イエスと生涯を共にした聖霊、その同じ霊がマリアの生涯にも共にいて、力づけ、導きました。マリアは霊によってイエスを身ごもり(1・35)、霊に満たされて神がご自分になさってくださいったことの喜びを歌い(1・46)、霊に支えられて出来事の一つひとつを心に留め(2・51)、そして生まれたばかりの信仰共同体と共に心を合わせて祈りました(使徒1・13)。

このように、イエスと同じようにマリアもまた神の霊、すなわち聖霊と共にいたのです。マリアは私たちキリスト者の手本となるのです。なぜなら、キリスト者は洗礼によって神の子とさせていただき、聖霊と共に生きていくからです。イエスとマリアがそうであったのと同じように。私たちキリスト者の一人ひとりの中に聖霊が息づいています。マリアが聖霊に支えられて十字架のもとに立っていたように、私たちも聖霊に支えられ、導かれて、困難な人生を歩んでいくのです。

マリアの汚れなきみ心

ところで、イエスのみ心のお祝いの後、教会は聖母のみ心を記念します。日本語では聖母のみ心と呼びますが、マリアの汚れなきみ心が正式な呼び方です。イエスとマリアのみ心への信心は、一七世紀のフランスの聖人ジャン・ユード(Jean Eudes 1601-80)に負うところが大きいです。その頃は宗教改革後の混乱の時代でした。宗教上の対立が、政治問題へと発展し、ついには長い戦争を引き起こしました(三十年戦争一六一八-一四八)。一方で当時支配的であった思想によるキリスト教信仰の軽視が広まる中、他方で教会の中に数々の霊的な刷新が生まれた時代でもありました。「フランス学派」と呼ばれるこの頃の霊性は、現代に至るまで私たちの信仰生活に大きな影響を与えています。マリアの汚れなきみ心への信心は瞬く間にフランス全土に広まっていきました。一九世紀になるとミサ典礼書の中にも加えられましたが、まだ一部の地域の教会で祝われるだけでした。カトリック教会全体で祝われるようになったのは、マリアの汚れなきみ心に全世界、全人類をささげると宣言した(一九四二)教皇ピオ十二世の治世からです(一九四四)。

マリアは心に留めていた

ところで、マリアの汚れなきみ心とは一体なんでしょうか。ご自分に生じた様々な出来事を心に留めて、思い巡らせた(ルカ2・19)マリアは、今日の福音でも「これらのことをことごとく心に留めて」いました(2・52)。マリアは自分に語られた天使の言葉、すなわち、神からのみ言葉に耳を傾け、思い惑いながらも、それを受け入れました。そして、黙想しながら、心の中で守り続けたのです。これはすべて、マリアへの聖霊の働きでした。なぜなら、マリアをいと高きおん方の力、聖霊が覆っていたからです(1・35)。その意味でマリアは、聖霊の神殿です。神のみ言葉を受け入れ、守り続け、誠実に実行しようとする素直な心こそがマリアの汚れなきみ心です。そんな心を持った人はイエスから、多くの人々から「幸いな者」と呼ばれるのです(1・48、11・28参照)。マリアの汚れなきみ心は教会の模範となります。何よりも教会こそが神の言葉を受け入れ、守り続け、実行していくからです。